

Kochi

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-03-07 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.24517/00053528

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



39. 高知県 追補

藤川和美・前田綾子・田辺由紀 (〒781-8125 高知市五台山4200-6 高知県立牧野植物園 saussure@makino.or.jp)

(A) 植物誌

2001年から高知県立牧野植物園に事務局が設置され、高知県植物誌編纂事業がスタートし、調査期間6年、編集・執筆期間2年の歳月をかけ、2009年に『高知県植物誌』(高知県・財団法人高知県牧野記念財団編集)が発行された。植物誌には3,170分類群の植物が記載され、各種の標本画像がDVDに収録されている。

編纂事業の事務局長は2001~2003年3月まで鴻上泰氏が、2003年4月~2008年3月まで小林史郎氏が担当した。2003年には高知県が編纂委員会を立ち上げ、年2回事業計画の検討を行った。植物誌の調査・標本作製に参加したボランティアは約350名にのぼり、これらの調査によって約108,000点の標本が採集され、牧野植物園標本室(MBK)に収蔵された。発刊後の県産新記録種は年2回発行されている『高知県植物誌ニュースレター FLORA of KOCHI』で報告している。

(B) 研究機関

高知大学理学部には、藓苔類と地衣類の分類・系統進化を中心とした植物分類学(松井透教授・岡本達哉准教授)と、植物群落・植生、保全、植生史等の植物生態学(石川慎吾教授・三宅尚准教授)の研究室がある。地域の藓苔類相や地衣類相は『高知大学理学部紀要(生物学)』、『Hikobia』、『自然環境科学研究』等に継続的に発表されている。同大学農学部には自然環境学コースが設置され、植物進化・分子系統・遺伝学(福田達哉准教授)の研究室がある。

自然史系の博物館は、越知町立横倉山自然の森博物館があり、『自然の森博物館ニュース』は第26巻まで発行されている。アマチュアのグループでは「土佐植物研究会」があり、野外観察会のほか、会誌『高知県の植物』が2年に1回発行され、『高知県植物誌』の補遺や刊行以降に確認された新産帰化植物の報告、山本幸憲氏による粘菌に関する研究などが掲載されている。

高知県立牧野植物園では、分類学的研究をはじめ、絶滅危惧植物の保全などの生態学的研究を行うとともに、植物の教育・普及活動にも取り組んでいる。学術研究機関誌として『Makinoa New Series』を継続発行し、これまでに10号を刊行した。日本植物園協会の植物多様性保全拠点園ネットワークでは、四国拠点園として日本産植物の多様性保全の中核機関としての役割を担っている。

(C) 標本

高知大学植物標本庫(KOCHI)には、原幹雄名誉教授や出口博則現広島大学教授、松井透教授らによる約8万点の藓苔類標本が、地衣類は岡本達哉准教授による約1万点の標本が収蔵されている。

高知県立牧野植物園標本室(MBK)には約24万点の維管束植物の標本が収蔵されており、四国産標本約12万点に加え、ミャンマー産標本約18,500点のほか、2002年4月から湯澤陽一氏、大山厚氏、平野弘二氏、山岡和興氏、テキサス植物研究所、ハーバード大学など国内外の研究者・研究機関から約9万6千点の標本の寄贈を受けている。また、交換標本は大元花明山植物園や京都大学総合博物館、クイーンシリキット植物園などを行い、2012年8月までに約1万6千点が収集された。

(D) レッドデータブック

高知県植物誌の調査結果に基づき、高知県林業振興・環境部環境共生課が2011年1月に「高知県レッドリスト(植物編)」を公表した。このレッドリストは委託をうけた財団法人高知県牧野記念財団が、高知県レッドデータブック[植物編](2000)での検討種の選定基準やカテゴリ要件を適用して、植物誌調査の標本情報と聞き取り調査をもとに県内の有識者・研究者・植物誌調査ボランティアによる作業部会の検討を経て作成した。その結果、絶滅種は46種(これまで1種(ヤマタツナミソウ)再確認)、野生絶滅1種、絶滅危惧種683種、準絶滅危惧種98種、情報不足種118種となった。

レッドリストは高知県のホームページに入手方法が示されており、同ページよりPDF形式でダウンロードすることができる(高知県レッドリスト(植物編):2010年改訂版 www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/030701/redlist-syokubutu.html 更新日2011年1月26日)。

(E) 植物群落

県内の山地ではニホンジカの食害による植生への被害が進行しており、高知大学石川慎吾教授や独立行政法人森林総合研究所奥村栄朗氏等により調査研究が進められている。太平洋沿岸地域の植生と植物相の形成に関わる過去の植生変遷の解明について三宅尚准教授が、河辺植生や水生植物群落について石川慎吾教授を中心に研究が進められている。森林植生に関する研究については独立行政法人森林総合研究所の酒井敦氏が研究を進めている。高知県中西部における常緑広葉樹林に関して宮崎卓氏の研究発表がある。